



里山に育む生きものたち

33 クサフジ(マメ目 マメ科)

学名 *Vicia cracca* L.

写真・文 / 安 昌美

今年は潤沼の周りの植物を少し調査する機会がありました。潤沼はやはり水域の生物に注目されている種類が多くあります。

経済的な面からはヤマトシジミなどの水産物、生物多様性保全からは潤沼で発見され、今は絶滅が心配されるヒヌマイトトンボが有名です。また、潤沼は多くの渡り鳥、特に水鳥には重要な場所であることを、もつと広く知られて欲しいものです。

今月はその湖畔で絶滅危惧植物を探しながら歩いた時に出合った植物の中からきれいな花を着けていたクサフジを紹介します。

▼クサフジとは

マメ科の多年草で、ソラマメ属に属しています。和名は「草藤」で、木で

なく、草であることから草が、花の集まりから藤が、つけられたのででしょう。他にも似たような花序を着ける草があるのでこの名前になったのは、本種が人の生活域に近い所を生育地にしたので、早い時期に認識されたことを示していると思います。

国内での分布は北海道、本州、四国、九州、国外では北半球の温帯から亜寒帯とされていることから、身近に生育していたと思います。茨城県では南部の河川敷や原野、やや湿った路傍など日当たりの良い場所に見られます。水戸付近では那珂川べりには見られません。しかし、県北部では見えていません。茨城県でも、私は下石崎、中石崎、網掛でのみ記録しています。

花期は5〜9月とされていますが、6月から7月に目立ちます。つる植物

ですから、周りの草にからまって群生していることが多く、あれば目立ちます。湖岸では思ったより生育箇所は多くありました。写真は6月、中石崎のもので

▼クサフジの生活

多年草ですが、草は全体に柔らかく、路傍などでは除草の時期や回数によっては生育が困難になることがあります。また樹木などで上部を覆われてしましますと、生育はとも難しくなります。

花粉は昆虫などに運んでもらい、種子は多くのマメ科植物と同じく、「さや」がはじけて種子を飛ばします。マメ科植物では空中の窒素分を取り込んで栄養分とします。このことから、水田のレンゲソウのように、ナヨクサフジ(ヨーロッパ原産、ヘアリーベッチ)が畑に栽培されますが、時に逃げ出しています。クサフジにとってもよく似ています。区別が難しいです。

水戸市周辺でも栽培や逃げ出しがみられます。帰化植物に置き換わらないことを願っています。

▼クサフジの仲間

茨城県にはソラマメ属のものとして、クサフジの他にツルフジバカマ(まれ)、ヤハズエンドウ(各地に普通)、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、ナンテンハギ(まれ)などが知られています。

編集・発行 / 茨城県総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成26年11月30日現在)

◆総人口 33,816人 (-36)、男 16,909人 (-24)、女 16,907人 (-12) ◆世帯数 12,637世帯 (-3)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています